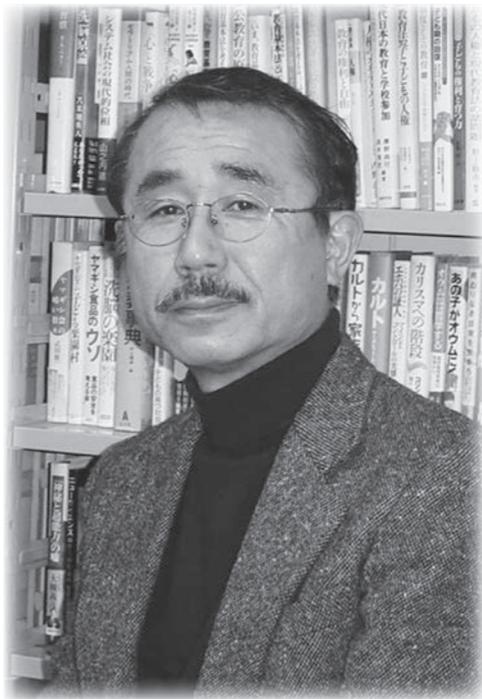


# 子どもと共に成長する教師に



埼玉大学名誉教授・浦和大学教授

やまぐち かずたか  
**山口 和孝**さん

プロフィール 埼玉大学、浦和大学などで長年教育学、教員養成に携わる。研究テーマに子ども権利、教育と宗教、高等教育論がある。日本教育学会、日本教育法学会の理事を務める。著書に『子どもの教育と宗教』（青木書店）『Q&Aでわかる宗教と教育・人権・平和』（平和文化社）等多数。スクールセクハラ問題の全国研究大会を開催し、また埼玉大学ブランド日本酒「鳳翔閣」醸造のまとめ役として活躍。

私は、1948年広島県福山市で生まれました。戦前、父方の祖父が軍商で、福山にあった歩兵第41連隊の物資をすべ

## 愛国少年教育

て賄うほどの大きな店を営んでいました。が、福山大空襲を受けて財産をすべて失います。当時、父は、満州関東軍にいましたが、敗戦間際になって軍港だった呉のあかつき部隊に転属となり、そこで被爆します。ですから私は被爆2世です。

父は兵隊から帰ってきて福山で唯一の電気屋「山口ラジオ復興社」を興しますが、

## 働きながら子育てと大学へ

その後は東京に出てきて、一家はバラツク同然の住まいで貧困の極みの生活を送りました。貧しくて大学に行けるような状況ではなかったのですが、日本育英会の特別奨学金をもらい、大学には入学。しかし、親を養っていかなくてはならず、働きながらの毎日でしたので、大学の授業にはほとんど出席しませんでした。それでもベトナム反戦運動に参加するなかで、ベトナムを含め、アジアの宗教者や日本の宗教者（原水爆反対運動、ベトナム反戦）とかかわるようになり、宗教者たちの平和運動に関心をもつようになりました。

大学を卒業して丸の内の金融界に就職し、モーター社員となりました。しかし、共働きで親の援助が期待できなかった中で、子どもが生まれたときに、私が会社を辞め、大学院に行きながら子どもが小学校入学まで私が育てることにしました。保育所も学童保育も十分でない時代です。公園に子どもを連れて遊びに行く毎日

でした。当時はめずらしがられるよりも、なにか問題を抱えた家庭というような奇異な目で見られていました。この時の子育てと共働きの経験が、その後の教育問題を語る時に大いに役に立つことになりました。

修士課程を修了した時、都留文科大学や杉野女子大学の非常勤講師の話が来て大学教育とかかわるようになります。都留文科大学は、大田堯先生が学長の時、大学の在り方についていろいろと語り合いました。これが縁で、私が埼玉大学の教育学部長になった時、大田先生がご自身の遺産の一部を見沼の環境保全に役立てる大学教育に使ってほしいと資金提供してくれました。私は喜んで引き受け、新しい授業と地域の人も参加できる地域センターを作りました。

杉野女子大は、お裁縫実技の大学で、どうしたら学生の心をつかまえる授業ができるのかに腐心しました。埼玉大学教育学部に着任したときには、学科には川合章先生ほか、日本教育界を代表する教育界のお歴々がいましたので、大変勉強になりました。当時、教育学部は全教ゼミや全障研活動、日生連などの教育活動

私が小学校3年の時に倒産し、一家は離散します。私は母方の祖父母のもとで暮らすことになりましたが、祖父が天皇制国家の地方高級官僚でしたので、私は「山口家」再興の責を担わされた長男として厳しい教育を受けます。民主教育が展開されている時代なのに愛国少年教育を受け、教育勅語は全部覚えさせられました。このことが後に研究者になった時に靖国問題などを理解することに大いに役立つことになりました。宗教と教育の問題ですが、戦後の国家体制のあり方と絡んできます。

の拠点にもなっていました。学生たちの社会的活動やゼミ活動が盛んで、よく勉強しているゼミ生たちに鍛えられました。ゼミ全体で取り組む諸活動は、自己認識や関係性づくりで脆弱性ももつ現代学生の成長を促すイニシエーションとなりました。

## ベトナムの現実を目の当たりにして

世界の高等教育が新自由主義的改革でどのように変わってきたのかを調査するプロジェクトが立ち上がりました。ちょうど、私の研究室に優秀なベトナムからの留学生が来ていました。彼女は日本語も優秀で、ゼミで新自由主義のことを勉強していました。彼女はベトナム共産党青年部のエリートでしたが、勉強を進めていくうちにベトナムは社会主義国でなく国家独占資本主義に進んでいるのではと疑問を持つようになっていきます。

2010年から8年間、彼女を同行してベトナムの調査に行きました。私のような年齢にはベトナムは社会主義国での

優等生だというイメージがありました。しかし、行ってみると全然違っていました。拝金主義と競争主義が横行。義務教育は建前上無償ですが、多額の経費がかかる現状にこれが社会主義国かと啞然としました。

ベトナムでは、高等教育を民営化する共産党の政策をいかに遂行するかという改革が進められていました。これは、新自由主義のもっとも悪いところを国家が率先して展開した姿で、私は「丸裸の新自由主義」と名付けました。

農業中心の経済からちゃんとした資本主義経済の発達とそれにあう政治体制の確立を経ないまま、社会主義的政策から一挙に資本主義、それも「ドイモイ」の名による新自由主義改革になりふりかまわず突き進むベトナムの高等教育政策には、新自由主義の本質がみごとに露呈されていました。

## 国家と親からの自由を

宗教と教育の問題ですが、戦後の国家

れています。学問の自由は保障されている大学なのに、授業内容は学習指導要領に準拠させられています。自分のやりたいことをする学生生活を送ることがなくなっています。文科省は今回の学習指導要領の改訂と同時に大学における教職課程の再申請を実施しました。教職課程関連の授業内容（シラバス）が学習指導要領どおりになっているかどうか、とくに教科指導法では、学習指導要領を必須テキストとしていくかどうかなどを文科省が示すモデル・カリキュラムの観点に照合させて提出することを要求しました。

さらに指導案作成では、学習指導要領にそった「模範的」授業指導案はウェブ上でのクリック1つで「褒められる」ものを作成することができます。子ども達の疑問や先生自身の興味や関心、あるいは、地域や子ども達の抱える課題にそって教材研究をしようとする姿勢は形成されなくなっています。教材のデジタル化、教育方法の電子化は先生たちに教材研究の興味や機会を失わせ、うまく授業を展開するために情報機器をいかに上手にこなすことができるかのスキル獲得に傾斜していくでしょう。学校マネジメントと評価が上から降りてきて、独自の教材研

体制のあり方と絡んできません。政治と教育の分離。天皇制の処理に関わる問題。価値の異なる人たちとどうやって共存共栄するのかという大きな問題があります。靖国問題や天皇即位の宗教的儀式に代表されるように、いまだに日本は国家のありかたがアニミズム的な神話と宗教の分離の上に成り立っていません。

国家が宗教に対して禁欲的になることは、どの宗教にも干渉しない国家による信教自由の保障です。日本国憲法では信教の自由を認めるとしか書いていません。しかし、学習指導要領は「人間の力を超えたものへの畏敬の念」育成を説いています。すなわち、超自然的存在を認めていることになり、憲法違反と言えます。

さらに子どもの権利のあり方に関わる問題があります。児童虐待やカルト集団の中の親と子どもに観られるように親と子どもは対立することがあり、親と子の関係は必ずしも美しいものではありません。カルト宗教と子どもとの関係、親子の問題。子どもの権利をいかにして保障していくのか。子どもの権利条約14条に子どもの信教の自由がありますが、宗教問題については親優位を規定しています。親に従えとの内容になっており、

究をしない学習指導要領命の若い先生たちがロボット化していくのが心配です。

研究所の課題は教職員組合の成長です。組合員が研究所に結集できないのは、多忙化と古いやり方のためだと思います。若い人たちのコミュニケーションはスマホやパソコンになっていて、これに対応した情報発信のしくみを工夫しなくてはなりません。そうでないと教育運動は、情報社会から取り残されることになるでしょう。地域の教育問題は多様な教育活動をもつていて、地域のさまざまな教育活動と連携する研究所が求められています。そのためには、研究所が支援する個人・団体のなんらかの加盟制ができないでしょうか。情報機器を活用した双方向のネットワークを構築が求められています。季刊誌は全国的に優れた発信媒体ですが、電子化してどこでも誰でも読めるようにすることも大事ではないでしょうか。

## 新しい教師のみなさんへ

今の教育現場は、大学で学んだことだ

権利条約の限界がここにあると思います。日本に多くの外国人の子が来ています。国家からの自由、親に制約されない自由を保障することが大事なことです。

## 教育現場の状況と研究所の課題

教員採用試験の倍率は、年々低くなつていて、とくに小学校教員の志望者が減少してきています。「ブラック」職場というイメージが蔓延していて、「ブラック」を理解できる偏差値の高い高校生は教員の道を選ばなくなつてきています。暗記勉強で教員採用試験に合格してきたため、歴史が分かっていない学生もたくさんいます。こういう学生は完璧主義と偏差値思考が身についています。そして、学習指導要領を丸飲みして、校則があるのが当然と思つています。仕事はやりませんが、数年して少し失敗するとすぐに精神的にまいってしまい、辞めてしまいます。

大学における教員養成課程のプログラムの問題も指摘しなければなりません。今の学生は、授業への出席を徹底管理さけでは対応できない課題がいっぱいあります。免許状取得のための法的基準が、現代の親や子ども、地域社会が抱える問題に向かい合う内容になっていないことが理由のひとつです。もうひとつは先生たちが忙しくて、若い先生たちが直面する課題を学年全体で考え、悩みに相談のり、励ますという環境が薄くなつていることがあります。さらには自分で考えたいおもしろい授業をやるうとしても、それは学習指導要領どおりでないと批判されることなどがあるでしょう。

学校の流れは一年単位です。一年たないとなかなか全体のがわからぬ組織です。完璧主義のゼロか百かの思考の人は、「今できないのは当たり前」と、のんびり構えることが大事です。ベテランの先生方も最初からなんでもできたわけではないのですから。子どもは地域、家庭、成長の度合いによって興味の持ち方や理解の仕方はさまざまに違っています。ぜひ、子ども達の様子や自分自身の疑問や関心を深掘りする教材研究に力を注いで下さい。自分がおもしろくなることと子どもたちもおもしろくなるし、先生をやる自分が自分の成長につながるべく、先生をやるは必ずです。